

令和元年度 第3回市民と市長の座談会

会 議 報 告

事務局 企画財政部広報秘書課広聴係

開催日時	令和元年7月11日（木）午後7時00分～9時00分
開催場所	桜町上水会館
参加者	男性 5名 女性 17名 計22名
会議次第	<ol style="list-style-type: none"> 1 開 会 2 市長あいさつ（市政報告） 3 懇 談 フリーテーマ 4 閉 会
主な意見	<ul style="list-style-type: none"> ・（仮称）新福祉会館の構造について ・議会の運営について ・市長のスケジュール管理について ・浴恩館公園の野外調理場について ・子どもたちの遊び場について ・ICT予算について ・無線LANの健康被害 ・ごみ非常事態宣言の意味について ・リサイクルセンターの建設その他の取組について ・市民ができるごみ問題対策について ・小金井 宮地楽器ホールの運営について ・武蔵小金井駅北口の再開発について ・小金井 宮地楽器ホールで行われた避難訓練コンサートについて ・もくせい教室の東小金井への設置について ・情報発信について ・ワークショップの開催について ・政策決定過程における市長意思の反映について ・公園のホームページについて ・シビックプライドの醸成について ・農福連携について
懇談内容	別紙のとおり
その他	手話通訳者 2名 保育士 2名

令和元年度第3回 市民と市長の座談会

令和元年7月11日

1 開 会

○司会者

皆様、こんばんは。本日はご参加いただきまして、まことにありがとうございます。

私は、本日の司会進行を務めさせていただきます広報秘書課長の天野と申します。どうぞよろしくお願いいたします。

初めに配付物の確認をさせていただきます。1点目が本日の次第。2点目がアンケート。3点目が今年度の施政方針。こちらは今年の2月20日に表明したものになりますので、表紙は令和元年度ではなく平成31年度となっております。それから、令和元年度小金井市予算の概要。次にシティプロモーション基本方針概要版。市報こがねい5月15日号の新庁舎の特集面。障害のある人もない人も共に学び共に生きる社会を目指す小金井市条例のパンフレット。こちら、概要版と両方入っております。それから小金井てくてくMAP。東京2020オリンピック自転車ロードレーステストマッチに関するチラシ。こちらは交通規制のお知らせもあわせて入っております。それから、最後に市制施行60周年記念のクリアファイル。あらかじめ皆様にご用意したものは、以上10点でございます。

このほか受付にいくつか参考資料を置かせていただいておりますので、後ほどごらんいただき、ご自由にお持ちいただければと存じます。

開催に当たりまして、事務局よりご説明申し上げます。この座談会は平成28年度から開始したもので、毎年、年に4回、市民の皆様と市長とのフリートークということで開催しております。本日は、今年度の第3回目の開催でございます。

本日の進め方でございます。初めに市政報告ということで、重要課題の進捗状況につきまして、市長の西岡より簡単に報告させていただきます。その後、意見交換ということで皆様から自由にご発言いただき、それに対して市長がお答えするという形で進めさせていただきます。

懇談に入る前に、事務局より3点ほどご了承いただきたいと存じます。

1点目、懇談中は議事録作成のため録音させていただきます。

2点目、懇談の様子を撮影した写真をホームページに掲載させていただきます。ホーム

ページへの写真掲載等、都合が悪い方がいらっしやいましたら挙手を願えますでしょうか。よろしいでしょうか。

最後3点目、本日の終了時刻は午後9時までとなっております。会場を撤収する都合上、終了後につきましては速やかにご退場いただきますよう、ご協力をお願いいたします。

では、次第に従いまして、市長の西岡よりご挨拶と市政報告をさせていただきます。

2 市長あいさつ（市政報告）

○西岡市長

皆様、こんばんは。ご紹介をいただきました小金井市長の西岡真一郎でございます。

本日は、お足元の悪い中を市民と市長の座談会にわざわざご参加いただき、会場まで足をお運びいただきまして、まことにありがとうございます。心から御礼を申し上げます。

冒頭、25分程度になろうかと思いますが、市政報告ということで、私から、皆様方にお伝えさせていただきたいことをこの場でお話しさせていただきます。その後は、自由に、特に今日はテーマも設定しておりませんので、フリーテーマでございますので、ご意見、ご要望、ご質問、ご提言などなど、さまざまなお声をお聞かせいただきたいと思いますので、どうぞよろしく願いいたします。

それでは、この座談会でございますが、市民と市長の座談会ということで、こういった形で、輪になる形で、机がなくて申し訳ございません。帳面は取りづらいかもしれませんが、なるべく懇談形式でという思いで開催いたしました。

今日で12回目の開催ということになります。まだまだ十分ではないかもしれませんが、私は市長に就任させていただいてから3年5カ月が経過いたしました。市民の皆様方との対話、意見交換というのをとても大切にしなければいけないと心がけてまいりました。市民の方々とは、こういった形で直接臨ませていただく座談会を年に4回。その他、市の審議会や市の計画をつくる際の意見交換。最近はワークショップという形式を多用しておりますが、ワークショップによるさまざまな意見交換の会などを開催させていただいております。これまでも新庁舎建設、公共施設、長期総合計画策定に向けてなどなど、さまざまな形で市民の皆様方との意見交換会に臨ませていただいております。

また、子どもたちとの意見交換というのもとても大切にしておりまして、公立小・中学校が14校ございますけれども、私は1校1校順番に回って、子どもたちと一緒に給食を

食べながら、子どもたちの輪の中に入れていただいて、いろいろなお話をしています。子どもたちの様子を、私も肌感覚で感じ取っています。13校回り終えましたので、来週は小金井第二中学校に給食を食べに行くことで、14校全て終了することになります。

あるいは市の職員の方たちとの対話というのもとても大切だと思っております、これも私の発案ですが、市長と職場の懇談会というのもずっと継続的に開催しておりました。全部で42課あるんですけれども、今2巡目がもうすぐ終わるところでございまして、ほぼ80回ぐらい開催してきたことになります。

まだまだ不十分でありますけれども、こういった形で市民の方々となるべく直接お会いして、いろいろな意見交換をさせていただき、直接声をお寄せいただくことに引き続き努めてまいりたいと思っております。

それでは、まず私のほうから1点目、小金井市の最重要課題でございます可燃ごみの処理につきまして、ご報告いたします。

小金井市の可燃ごみは、広域支援と申しますが多摩地域の各団体の施設で処理をさせていただいております。ご支援いただいている各団体の施設の周辺にお住まいの皆様、並びに関係者の皆様のご理解とご協力のおかげで、平成30年度についても滞りなく処理することができました。

平成27年7月に日野市、国分寺市及び小金井市の3市により可燃ごみの共同処理を行うために、浅川清流環境組合を設立いたしました。日野市内におきまして、平成29年1月から新可燃ごみ処理施設の建築工事が開始されました。現在、順調にその工事が進捗してございます。来年4月、令和2年4月から本格稼働する予定でございます。そして、この新焼却施設はいきなり稼働するというわけにはいきません。ならし運転をしたり、いろいろなチェックをしたり確認をするために試験運転というものを行います。1月から試験運転を開始する予定でございまして、そのために今年の12月頃には、新施設の試運転に伴うごみの全量搬入を開始する予定でございます。

したがって、平成19年度から続いてまいりました広域支援は12年間の長きに及びましたけれども、今年が最終年ということになる予定であります。小金井市といたしましては、ご支援をいただいている多摩地域各団体及び日野市の施設の周辺にお住まいの皆様並びに関係者の皆様への感謝の気持ちを忘れることなく、与えられた役割と責任をしっかりと果たしていかなければいけないと思っております。どうか市民の皆様も、これからも引き続きごみの減量及び資源化の推進にご協力をお願い申し上げます。

なお、市民の皆様方や業者の皆様方のご努力によりまして、小金井市のごみの1人1日当たりの排出量は、人口10万人から50万人未満の自治体の中で全国で一番少ない自治体であります。これは環境省で発表されております。あわせてリサイクル率も平成29年度50%を超えました。51.8%でありまして、このリサイクル率も全国1位という状況であります。これは、もう市民の皆様方の分別や減量、資源循環型社会を目指すさまざまな取り組みの成果であり、また、スーパーの方々などの自主回収などのおかげでございます。この流れをこれからも続けてまいりますし、新施設が稼働しても、小金井市のこの分別のあり方には変更はありません。むしろ引き続きこれからもごみの減量、3Rの推進に取り組んでまいりたいと思っております。

2点目は、庁舎問題についてでございます。お配りしてございます資料、今日は資料がたくさんあって申し訳ないのですが、白黒ではありますけれども、既にお配りしておりますのでごらんになった方もいらっしゃるかもしれませんが、5月15日号の新庁舎建設特集号ですね。カラーの総計4ページに及ぶ、進捗状況をご報告する市報を配付いたしました。どうかその資料も参照いただきながら、お話を聞いていただければと思います。

私が市長に就任以来、これまで庁舎問題に関しましては長年の課題であります。平成4年に総額119億円という、小金井市の当時の予算規模から言えばかなり大きな規模の財源を投入することになりますが、庁舎建設予定地を購入いたしました。あれから28年が経過したわけでありまして。これまで庁内での検証、(仮称)新福祉会館建設基本計画策定市民検討委員会などで議論、建設調査などを行いながら、市議会での議論、市民説明会やワークショップの開催、市民との座談会など、議会や市民の皆様との対話を積み重ねながら進めてまいりました。

地域の中心部にあります、先ほど申し上げた庁舎建設予定地。その昔は蛇の目ミシン工場があったわけでございます。この地域の中心部、約1万1,000平米の敷地の中に、今分散している、老朽化している、財政的課題を抱えているこの庁舎、市役所の全ての機能。そして、既に閉館いたしました旧福祉会館の機能。そして市域の西側で事業を展開している保健センター。この中には健康課、保健センター、ファミリー・サポート・センター、子ども家庭支援センターが入っております。この保健センターの全ての機能。大きく分けると、市役所、旧福祉会館、保健センター、この大きな3つの機能を全て集約化いたしまして、そして市役所と福祉会館を複合建設で建設するという方針でございまして、今、

基本設計に入っているところでございます。

現在は、今年の3月には基本設計を進めるための契約を締結いたしました。お手元の資料でございますように、佐藤総合計画という事業者、受託者が決定いたしました。そして、旧蛇の目ミシン工場跡地におきまして、中心的な行政拠点、防災の拠点となる新庁舎と地域共生社会の拠点を目指す（仮称）新福祉会館の機能を連携させた多機能複合施設の建設に向けまして、基本設計に今、鋭意取り組んでいるところでございます。今年度、令和元年度いっぱい、今年度末までの基本設計を終了させるということを目指して取り組んでおります。

基本設計の中では、建物の構造や配置、各階の基本的なレイアウト、備えるべき機能や設備、内外のデザインなどについての取りまとめを進めてまいります。この基本設計は極めて重要でございます、1つの建物が建つとすれば、70%から80%の基礎的な部分を含めて、この大半のことを決めていくことになります。

3点目は、子育て環境日本一に向けました、子育て支援、子育て・教育環境の向上などについてでございます。

まずは喫緊の課題が待機児解消でございます。私が市長に就任する前の平成27年4月の待機児童数は164人ございました。その年の保育園、平成27年度の保育園の全保育定員数は2,007名でした。平成30年4月の時点では、この定員数が2,742人まで定員増を図り、昨年度は88人まで待機児童数を減少することができました。今年5月1日現在の定員数は3,028名となっており、就任以来1,000人以上の定員増を図ったこととなります。2,000名から3,000名に定員は増えました。しかしながら、依然として保育園に入れない方たちがいらっしゃることに変わりはなく、現在も待機児童ということで、大変ご迷惑をおかけしているご家庭の皆様方には、心からお詫びを申し上げます。申し訳ございません。引き続き複数園の開設に向けまして、今努力をしているところでございます。

現在、速報値でございますが、平成31年4月1日現在の待機児童数は113名となっております。これからも、10月からはいよいよ幼児教育・保育無償化という新たなステージにも入ってまいります。令和元年5月10日国会で成立しています。これに伴う入所希望者の増加も予測されるところでございますので、待機児童対策には今後も引き続き力を入れて取り組まなければならないと思っています。

また、保育を希望するご家庭や子どもが等しく保育サービスを受けられ、子どもが健や

かに成長できるよう、小金井市では今まで存在しなかった、初めてとなります保育の質のガイドラインと、今後の保育施策として取り組むべき方向性について定めるために、現在策定委員会を設置いたしました。委員の皆さん方には大変ご熱心なご議論、ご検討をいただいております。保育計画というものでございまして、量のみでもなく質の向上も含め、引き続き取り組んでまいりたいと思っています。この点につきましては、まだまださまざまな幅広い分野でいろいろが取り組みがされておりますので、今日はいろいろなまたご意見をお寄せいただければと思っております。

4点目は、行財政改革の推進でございます。第3次行財政改革大綱の計画期間が、平成27年度に終了いたしました。この行財政改革は未来への不断の努力が必要であり、常に質的な改革、量的な改革、組織・機構の改革。この3点が大切だと常々されてはいますが、市民サービスを向上させるために、私ども行政がどう生まれ変わるのか。そういった点を常に模索していかねばなりません。

平成29年4月には、小金井市行財政改革プラン2020を策定いたしました。また、これを具体的に進めていくために、平成29年9月にはアクションプラン2020を策定いたしました。大きく11の取り組み項目に分類し、項目ごとに年次計画を定めて取り組んでいるところでございます。

全ての施策には財源が必要になります。財政再建もとても重要であります。そして、市民サービスを向上させていくために、さまざまな手法を検討しております。今や自治体の仕事の中にもAI、人工知能やRPAが、もう既に導入されている時代となってきております。このほか市役所改革といたしましては、イクボス宣言に伴う男性職員の育児休業取得率の向上や、退庁時間の見える化や、時差出勤制度の本格導入による時間外勤務の抑制にも取り組んでまいりました。しかし、まだまだ道半ばでございます。

行財政改革プラン2020、それからアクションプラン2020に基づく取り組みを進めた結果、2年間で約4.9億円の財政効果となりました。令和元年度は、行財政改革による確かな成果が感じられる一年。新たな行政課題を明らかにし、その対応を始めていく1年とするため、私自身もこの先頭に立ちまして、職員とともに引き続き取り組みを進めてまいります。

続きまして、今年度の主な予算につきまして、お手元の資料をもとにお話をさせていただきます。令和元年度小金井市予算概要という資料をお開きいただきたいと思います。実際はもう少し分厚いのでありますが、印刷のこともございますので、令和元年度の主要な

予算のところを抜粋して印刷してまいりましてわけでございます。もし全部ごらんになりたい方は、ホームページでダウンロードできます。見ることができますので、ご参照いただければと思います。

14ページからは、今年度、令和元年度に予算化をし、そして市議会でご議決をいただいた主な予算でございます。なお、この説明を詳細まで始めますと何時間もかかってしまいますので、本当に主立ったものを少し時間が余るようにご紹介いたします。

まず14ページです。上から2つ目、計画策定に要する経費。今年度から、小金井市の環境基本計画と地球温暖化対策地域推進計画と、とても重要な緑の基本計画の改訂を行います。令和2年度末で計画期間が切れますので、今からの策定で準備を進めてまいります。

15ページをお開きください。一番下です。真ん中には、浅川清流環境組合負担金と書いてございますが、こちらが先ほど申し上げました日野市と国分寺市と小金井市、3市で新しい焼却施設を設立するための今年度の予算でございます。

その下には、清掃関連施設整備に要する経費とございますが、皆さんご承知のようにごみ処理は多様な形態がございます。燃やすごみ、プラスチック、燃えないごみ、粗大ごみ、空き缶、缶、ペットボトル、瓶、古布、古紙、布、危険物、再生紙などなど、たくさんの種別がございますが、不燃系の施設、清掃関連施設などでの不燃・粗大ごみ、資源物の処理について、施設の老朽化などを考慮し、循環型社会の形成に資する施設の整備を進め、適正処理の維持を図りますと記載しております。

わかりやすく申し上げますと、今、貫井北センターの南側にございます中間処理場、不燃粗大ごみを破碎処理してございます。プラスチックごみの中継地点となっておりますが、老朽化が非常に心配されるところでございまして、早目、早目の対策をとらなければいけません。そういう意味で、この中間処理場の老朽化対策を進めるとともに、庁舎建設予定地の中に暫定的に置かれている空き缶、ペットボトル、古布の集積場、あるいは処理施設ですね。これらを新たに整備をしていきます。

まずは二枚橋の跡地。以前焼却施設がございました二枚橋の跡地の北側半分を活用いたしまして、こちらに今ある中間処理場の施設の一部機能を移設いたします。新しい施設をつくって、移設します。そして、中間処理場の機能が移転された後には、更地化をいたしまして、今度はそこにプラスチック、空き缶、ペット、びんなどの新しい処理施設を整備いたします。

この2つの土地、二枚橋焼却場跡地と中間処理場の土地を活用いたしまして、不燃系の

ごみ処理施設の再整備を行わせていただくための準備をしております、今年度から設計、そして施工へと移っていく予定でございます。二枚橋のほうの新しい施設は令和3年度中の開始。中間処理場の処理施設は令和6年度中の開始を目指しているものでございます。

続きまして17ページ、一番上でございます。武蔵小金井駅の南口第2地区第一種市街地再開発事業補助金でございます。今年度がいよいよ補助スキームの最終年度となります。もう、小金井市のほとんどの場所から目に見えていらっしゃるかと思いますが、26階建てと24階建てのツインタワーが最上階まで達しまして、竣工は来年5月。その後入居あるいは店舗棟への入居が始まりまして、夏にはまちびらきを予定しております。新たにぎわい拠点の誕生となりますし、分譲マンションも716戸ございます。マンション共用が716戸、店舗は約1万1,000平米ということで、かなり大きな規模の再開発ということです。

真ん中です。無電柱化基礎調査委託料。私は自分の私の方針といたしまして、無電柱化を推進させていただきたいと思っております。小金井市独自の無電柱化対策の計画をつくり上げました。平成30年度。したがって、今行われている無電柱化は都道が中心でございますが、以後、小金井市が市の道路や、都道でありますけれども小金井市が管理している道路を優先順位をつけて電柱を撤去し、電線類を地中化するという事業を準備しております。そのための基礎調査委託料となります。

まず最初に庁舎建設予定地の3・4・12号線の連雀通りから庁舎まで。あるいはムサコ一番街。北口の旧西友裏の東西道路。あるいは、その裏、農工大通り、行幸通りなど。あるいは北大通りなど。段階的になりますけれども、無電柱化を推進したいと思っております。

無電中化は、特に災害時ですね。電柱の倒壊がなくなり、また歩道が広がります。そして景観もよくなります。空が広がっていきます。最近は技術も大分高まってきています。スタートしたころはかなり高額な事業でありましたけれども、コスト的にも、少しずつではありますが減少傾向にあるというふう聞いておりますが、これは安全・安心、景観、防災などのために、小金井市としてはこれは計画的に取り組もうということがあります。

17ページが一番下でございます。東小金井駅の北口土地区画整理事業を今進めております。北口のロータリーはもう最終的な姿で完成しておりますが、今年度、東小金井駅北口第4期まちづくり協議会を設立いたします。このまちづくり協議会の中で、主に北口

のロータリーのデザイン、修景。こういったことを今進めています。これから、いろんな緑に触れていただいて、それから武蔵小金井駅の南口のように、改札を出てから濡れずにバスに乗れる、上屋根というものをロータリー全域に建設いたします。そういった北口の一つの玄関口でございますロータリーのデザインを中心に議論、市民参加による議論を進めさせていただきたいと考えております。

続きまして19ページでございます。真ん中辺にははけの森美術館ホームページ作成委託料や、茶室「花侵庵」修復工事というものが掲載されております。はけの森美術館は小金井の誇るべき魅力でございます。そして、既にご承知の方もいらっしゃると思いますが、この美術館の北側、緑地の中には中村研一画伯が実際に生活をしていた自宅、主屋。築年数は相当古いです。それから廃材でつくったと言われている茶室もでございます。

この2つの建造物が、小金井市内で初めて国の登録有形文化財に今年の3月末に登録されました。大変うれしく思っております。小金井市内では初めてでございますので、江戸東京たてもの園の中にもすばらしい建造物がございますが、国の登録有形文化財はございません。佐藤秀三さんという方が設計され、とても価値のある建物ということで、国に登録されたことは喜ばしくございます。この「花侵庵」につきましては大変傷んでいますので、調査を行って修繕を行って、お茶会などに活用できることを目指して修復工事を行わせていただきたいと思いますと思っております。

20ページになります。ここから先は、主に教育、保育、子どもに関するところが大変多くなってまいりますが、昨今の酷暑対策、暑さ対策ということで、今、小金井市は普通教室には全てにエアコンが入っておりますが、特別教室に順番にエアコンを入れます。理科室や美術室や家庭科室などがございます。

さらに給食室。給食をつくっている方々も大変暑い中で一生懸命給食をつくっていただいておりますので、第一小学校をまずモデルとしまして、給食室の空調の工事なども行います。

また、屋上防水工事。二中を、雨漏りなどしないように防水工事を行います。

また、体育館も昨今大変暑いということでございまして、東京都の補助制度を活用しまして、第四小学校をまずモデル校にいたしまして、スポットバズーカ方式の新しいタイプのエアコンを入れます。その検証をいたしまして、令和2年度から残りの13校に対しまして、体育館へのエアコンの導入を段階的に行ってまいります。

真ん中にはプログラミング教育に関するタブレットの購入。

一番下には、いじめ防止条例を策定するという事で、その検討委員会がいよいよ設置されます。

21ページには、話せる英会話、コミュニケーションとれるようにしようということで、外国人の方を講師としてお招きする英語の指導。

上から2つ目が、放課後子どもプランの事業に対しまして、スタッフの方々への謝礼のさらなる増額を今年度から実施することなどが書かれております。

また、下から2つ目には、民間体育施設ということで2つございますが、小金井市はスポーツ系の施設が非常に脆弱だという状況がございますので、覚書を締結し、学校の体育館を定期的に月2回、市民に開放していただけることになりました。とてもありがたいことでございます。この総合学院テクノスカレッジは前原町にある大きな専門学校でございますが、とてもすばらしい施設でございまして、こちらを開放していただいております。

また、総合体育館の大体育室にも初めて空調、エアコンを入れるということになりました。総事業費2億円になりますけれども、東京都の補助制度を活用いたしまして、初めてエアコンの工事を秋に行っていただきます。

その次22ページ、一番下のところでございます。手話などに対応できる、あるいは外国語に対応できるポータブル端末機6台を小金井市役所等に設置いたします。

23ページ、下から2つ目。23ページの下から2つ目で、保育士さんには、待機児解消、そして保育士不足というのを解消すべく、処遇改善にこれまで取り組んできました。小金井市で働いていただける民間保育園の保育士さんに対しまして、毎月上限8万2,000円の家賃補助を実施しております。この総額が今、年間1億4,000万円ぐらいの予算額になっておりますが、安心して小金井市の保育士さんの方々に働いていただけるようにと処遇改善にも取り組んできたところでございますが、今回は介護職員。介護の事業所の現場で働いていらっしゃる職員の方々にも、宿舍の借り上げを支援する事業というものを初めて実施いたします。

その他、このあたりから、時間が25分を過ぎてしまったので、もう名称だけ申し上げますが、24ページから乳幼児健康診査謝礼。

成人歯科健診を20から80歳までの5歳刻みに拡充。

下から2つ目、義務教育就学児医療費助成に要する経費。小学校1年生から小学校3年生までの方を新たに乳幼児・未就学児だけではなくて、小1や小3の皆様方の所得制限を撤廃して自己負担200円ということで、それ以外は公費助成ということになりました。

25ページから、子ども食堂の推進事業の補助金で、子ども食堂を運営していただく方々に対する助成制度を始めることにしました。

病児保育事業運営委託料。これは大変大きな課題でございました。病後児保育はあるんですけども、病児保育が小金井市にはなくて、多くの保護者の方々や関係者から、小金井市にも早急にという要望があったんですが、今般、桜町病院がこの事業を受けてくださるという大変ありがたい業務委託がありまして、秋を目標に新設、新規事業を開始する予定でございます。

真ん中が、先ほど申し上げました保育計画の策定。

25ページの一番下には、昨今待機児だけではなくて、学童保育の希望者が年々増えておりまして、今年度初めて学童保育の利用児童数が1,000名を超えました。特に第三小学校の学童の希望が著しく、今の施設では、もう狭すぎる、と言いましょか、課題が多いので、新しい施設を校庭の中につくります。幸い第三小学校は校庭が広がったのでできたんですけども、今は東小の学童保育、緑小の学童保育なども次なる課題と考えています。学童保育大規模化というものにも対処していかなければなりません。

保育園、学童保育、それから小学校・中学校の児童数も増えていきます。先般、東京都教育委員会からこのようなデータが発表されています。5年後の小金井市の小中学校児童・生徒数の増加率が、5年後19.1%増。多摩地域で一番の増加率でございます。あと25クラスから30クラス、小中学校14校で増やさなければいけない状況になります。私は、子どもたちが増えるというのはとてもうれしいことなので、業務は、やるべきことはとても多いわけでありますが、一生懸命頑張らなければいけないと思っております。

最後のページが第5次基本構想・前期基本計画策定支援委託料ということでございます。これは実は非常に重要な計画で、自治体の憲法といったところになるわけでありまして、小金井市の最上位計画、一番大切な計画になります。この計画がもうすぐ計画期間が切れるので、第5次の計画をつくるんですね。10年間分の計画です。

これが今の計画です。この第5次版。新しい計画を、令和3年度からの計画をつくり上げてまいりますので、今年から最上位計画をつくるためのさまざまなことに取り組んでまいります。それまでに市民意向調査、学生アンケート、こが☆カフェという30年後の小金井市を議論するワークショップ。子ども懇談会という中学生、公立5校。子どもたちからいろいろな声を聞く。それから先般は1839会議というもので、18歳から39歳の方々を対象とした無作為抽出による約30名の方たちのワークショップを開催します。た

しか来週あると思いますが、高校生ワークショップも開催いたします。

順次このような形でさまざまな意見交換会を行っておりますが、こういった市民の方々の声を幅広く把握し、意見交換を行いながら、この第5次の基本構想の策定にしっかりとつなげてまいりたいと思っております。

そして新庁舎建設ということで、次のところに書かせていただいております。

若干、時間が過ぎてしまいました。申し訳ございません。以上、私が報告させていただきましたのは、主な取り組み4点と、令和元年度の予算の中から主要事業の中でもさらに絞った形でご報告いたしました。

さらに7月21日には参議院議員選挙が行われます。今も期日前投票を行っております。私が市長に就任してから、期日前投票所を1カ所増設いたしました。日にち限定ではありますけれども、東小金井駅南口、マロンホールで今度の木・金。来週ですね。期日前投票所を1カ所増設いたしました。この選挙は大切な選挙でございますので、大切な投票する権利というものを行使していただければと思います。

また、あわせて同じ日なんですけれども、こちらの資料に出ていますが、7月21日にはオリンピックテストイベント。小金井市もオリンピック競技開催地になりました。自転車ロードということで、自転車のマラソンでございますが、東八道路と小金井街道の一部が競技コースに選ばれて、1年前のテストイベントとなってまいります。

テストイベントといいましても、ナショナルチーム、世界の強豪チームや日本の代表チームが勢ぞろいいたしまして、120名のトップアスリートが駆け抜けますので、おそらくは、沿道、東八道路は直線コースで歩道も広いので、たくさんの方々が来られると思います。最近ロードレースタイプの自転車はとても人気がありまして、若い方々を中心に自転車へのブームが来ておると思いますが、もしご興味がありましたらご覧いただければと思います。貴重な機会であります。来年が本番でございますので、来年は開会式の翌日、7月25日が男子、7月26日が女子ということになっておりますので、2日開催されますので、よろしく願いいたします。

以上、私が特に重要課題と位置づけていることについてお話をさせていただいて、この後、時間の許す限り、皆様方とさまざまな意見交換をさせていただきたいと思っておりますので、どうぞよろしく願いいたします。ありがとうございました。

3 懇談

○司会者

恐縮ですが、これより着座にて進行させていただきます。

これより意見交換に入りたいと存じますが、本日、フリーテーマということではありますけれども、せっかく今日大勢の皆様にお集まりいただいておりますので、なるべく皆様がわかるような、共有できるようなテーマでお話しいただきたいということと、なるべく多くの方がご発言できるよう、要点を絞って簡潔にお話しいただきたいと思いますので、ご理解とご協力をお願いいたします。では、ご意見のある方は挙手をお願いします。

○市民A

本町五丁目の〇〇と申します。

まず第一番に、福祉会館の構造が写真に出ていますけれど、何か2階から下が吹き通しに見えると。だけど、こういうのは往々にして芸術家とか建築家が頭の中で考えることであって、要するに福祉会館だって、耐用年数というのがせいぜい40年から50年。そうしたら、ぶっ壊さなきゃならない。そうしたら、こういうものより、我々は現にいろいろなサークルやサロンやクラブを渡り歩いているけれど、必要なのは部屋なんです。

ここに今この会場ぐらいの部屋をできるだけ多くつくってもらえれば、それで全部のサークル、サロン、クラブが入れる。こんな2階から1階を見渡せるという見事なものをつくるって、これは佐藤何とかというのがこれは夢を描こうとしているのであって、あまり必要ないんじゃないかという気持ちはあるんですよ。

それからまた、建築はいいんだけど、今オリンピックだとか、それからオリンピックもあるし。だから僕のクラスメートなんか土木業者だけど、オリンピックのせいでクラス会にも来られない。忙しいんです。

それからまた小金井は建築ラッシュで、もう空き地ができるとすぐ建物が建つ。そうすると建築業者や土木会社が入ってやるから、もうこれはどうしたって資材が足りない。世界中でもオリンピックの総合競技場で木材を使うから、世界の樹木が伐採されるということで、世界で問題になっている。こうなると、どんどんコストが上がる。

また、リサイクルということですが、もう、しきりに昔はリサイクル、リデュース、リユース。3Rと言ったんだけど、リサイクルが、今リサイクル事業所がまた復活したような感じなんだけど、全然昔のリサイクル事業所とは違う規模で。だからリサイクルとい

うものが結構変わっちゃってるの。3Rじゃなくて2Rになっちゃった。だから、このところをどういうふうにするか。

また、僕は議会を傍聴する数が多いんですが、議会で傍聴していると必ず居眠りが出る。もう最初から最後まで黙って、何も言わないで傍聴席に座ってなきゃならない。それだから、もうどうしたって居眠りが出て当たり前じゃないですか。それで、どうも見ていると、職員のほうと議員のほうと傍聴席のほうと3つ空調があるようだけれど、どうも職員のほうのクーラーがよく効いて、傍聴席は大概僕が1人で傍聴しているから、少し冷房をわざと効かせないんじゃないか。それはまず市民サービスの欠如の一つだと思う。

それから、市民サービスの欠如というのは、何も設備をよくしろとか、お茶やお菓子を出せと言っているわけじゃない。議員が質問する。それでもって職員が答える。職員が答える場合に、いろいろな横文字、議会用語、政治用語、数字の羅列であって、全然わからない。あれは要するに市民に対するサービスの精神が完全に欠如していると思えない。だから、そういうふうにわかりやすい答弁であるということを心がけるのも、議会だとか市の行政の大きな市民に対するサービスじゃないですか。

もう一つ。これは市長さんのためを思って申し上げるんですが、市長さんが非常に不器用な点は、いろいろな催し事があるとタイミングがずれるんだ。早く来過ぎちゃったり、もう始まっちゃって。1度なんか、始まっちゃって、市長さんが挨拶しようと思ったら、挨拶することもできずにそのまま帰っちゃったことも、なんか1回・2回ある。。

要するに、これは市長さんの責任じゃないんだ。秘書官の責任ですよ。優秀な秘書官が、前、稲葉市長のときいたらしくて、稲葉市長はものすごくタイミングよく来て、そして見事にスピーチをやって、それですと帰る。あれは要するに誰が秘書官をやっていたんだか知らないけれど、秘書官が優秀なんだ。これは、稲葉市長が優秀なわけでもない。西岡市長が劣っているわけでもない。ひとえに秘書官が無能か有能か、それだけのことなんだ。ということがある。それからまた……。

○司会者

申し訳ございません。これでもう既に5点目になりますので、ほかのお客様もいらっしゃいますので、これで一旦ちょっと区切らせていただいてよろしいでしょうか。

○市民A

まあ、全部申し上げた。これ、5点でご回答をいただきたいと思います。

○西岡市長

たくさんご質問をいただきまして、ありがとうございます。

まず、吹き抜けは必要ないのではないかというご質問でございますが、まず前提条件といたしまして、今般技術提案いただいております受託者からは、私たちが必要と判断する面積は全て確保していただいております。著しく福祉会館の面積が減らされていたり、必要な部屋が担保されていなかったりということはございません。

○市民A

そうかなあ。

○西岡市長

吹き抜けは、それは質問者の方がおっしゃったような芸術的なことというよりは、機能面。連携面、それから交流面ということで、設計者によるいろいろなノウハウを持ってございますので、利用する方の立場、働く方々の立場に立って設計が提案されておりますが、詳細はこれから決めてまいります。

また耐用年数のことをおっしゃってございましたけれども、これも基本設計がまだ途中でありますから、まだ確定したことは申し上げられませんが、私の思いとしては、新しくできる新庁舎、(仮称)新福祉会館は50年。さらに大規模改修や手を入れて、丁寧に、そして大切に使って、さらにその先数十年、長く私は市民の方々に利用される頑丈な長もちする施設建設を目指します。

それからリサイクルはどうするのかということですが、リサイクルは、市民の皆様方、まずお一人お一人の皆様方の取り組みが何よりも大切であります。リサイクル作業所は、新庁舎建設に伴いまして事業を廃止、ストップいたしまして、新たなスキームでリユース事業がシルバー人材センターの方々の運営によって、リスタートしています。

今後は、先ほど申し上げました二枚橋に建設いたします新しい不燃系の処理施設の中で、リサイクルの事業を新たなスキームで構築をさせていただきたいと考えております。

リサイクルはとても重要です。これからも進めてまいります。

議会の傍聴席で、〇〇さんだから空調を入れないのではないかというご質問がありまし

たけれども、全くございませんので、均等に……。

○市民A

機能は、全部あの3つのクーラーは同じですか。

○西岡市長

同じです。

○市民A

そこに疑いを持つんですがね、僕は。職員のところだけ効くんじゃないかという気がするんですね。

○西岡市長

体感温度というのは、おそらくお一人お一人さまざまだと思います。今も軽く冷房が入っていますが、これでも少し暑いと感じる方もいらっしゃるれば、少し寒いと感じる方、ちょうどいいと感じる方もいらっしゃると思いますので、温度の担保というのは難しいですね。

しかし、議会棟の中では、これ、運営は議会事務局の方々が担われているわけでありましてけれども、私は、不当に、何か差別的な空調管理をしていることは全くないというふうにお答えさせていただきたいと思います。

また、もっとわかりやすい言葉を使うべきだというのは、これはもうご指摘ももっともだと思います。どうしても行政あるいは市議会での議論、私たちが答弁するときには行政用語、法律用語を使わざるを得ない場面が多々ありますが、私が答弁するときは……。

○市民A

全部そうじゃないですか。

○西岡市長

なるべくわかりやすく伝えられるように、一生懸命努力はしております。

それから、私のスケジュール管理についてでございますね。私と一緒に仕事をさせてい

ただいております市役所の秘書課の皆様方は、本当に私の大変な過密スケジュールを、とても濃密なスケジュールを一生懸命運営・管理してくださっております。私もこのスケジュールについては、地元のいろいろなたくさんのイベントが重なり合うときがありまして、どうしても行かれないときもありますが、可能な限りご案内いただいたものにはお応えしたいと思っております、どうしても日程の物理的な問題で少しおくれてしまったり、あるいは少し早目に退出しなければいけない場面もありますけれども、そこは、どうか頑張っておりますので、ご理解いただきたいと思います。以上です。

○市民A

稲葉氏は非常に器用でしたよ、あの人。ものすごく器用だった、稲葉氏は。あれ、秘書官が優秀か無能か、それだけの違いですよ。

○司会者

後ろの方が若干早目に手が挙がったかなと思いますので。

○市民B

すいません。こんな場でしゃべるのは初めてで、もうどきどきしているんですけど、ちょっとすごいどうしても言いたいことがあって。

今、浴恩館の野外調理場を使っている者なんですけれども、隣の梅林が売られるということで、そこがもし宅地になったら野外調理場が使えなくなるので、できれば市で買っただきたいということで来んです。私が出る前に、1年生の子どもがいるんですけど、お母さん、行かないでとすごい言ったんですけど、大事な話し合いがあって、野外調理場が使えなくなるかもしれないからと言ったら、子どもが「わかった」と言って。やっぱり子どもにとってもすごい大事な場所で、今、子どもが遊べる川原がすごい少なくなって、いろんな建物があって、蛇の目も今すごいたくさんの子が使っているんです。野球したり、もう幼稚園が終わったらそこに流れて、その場所がなくなってしまっ

ただ広い場所だけがあれば、子どもは自分で遊びをつくり出して遊べるんです。大人が何も与えなくても、それが子どもの考える力。今、学校でも教えられて教えられて、言われたことしかできない子をいっぱいつくっているんですけど、何もないところからいろいろな木を集めて家をつくったり。ただの広場が全然ないというか。やっぱり一小の方も

すごい困っていて、教育長にお手紙を書かれた方もいたり。

野外調理場がなくなるので、その隣が、梅林が、本当はそこを買って残していただきたいというのが、本当の願いなんですけれども。やっぱり小金井に人がたくさん、子どもが増えているというのは、子育てが本当にしやすいんです。都心にも近いけれど緑がある。遊び場もある。それでやっぱり来ている人が多くて、野川公園もあるし小金井公園もあるし。でも、そこまで行こうと思ったら、あそこは一部の人しか来られなくて、小学校の近くにそういう場所があるというのがすごい大事で、やっぱり蛇の目も一小からすぐなので、子どもが集まるんですよ。

私は緑町なんですけれど、あそこが今子どもがだんだん集まってきていて、地域の方々も必死で子どもを集めて遊び場にさせるといふか、そういう活動もみんなして、今の子どもの生きる力をそこで育てたいといふか、自分で考える力を育てたい。それで、きのうも浴恩館日和がやっていたので、ちょっと子どもがその浴恩館公園に行きたいと言ったので行ったんですけども、地域の方が子どもが火をおこしたいと言ったら、そこで火をおこせて、そこではたき火ができるんですね。子どもたちが自分で木をとってきて、足で折って、火をおこして、お芋を焼いて、包丁で2年生の子がみんなで切って、みんなで分け合って。やっぱりそういう姿を見るところがすごい少ない。

隣が梅林なんですけれども、その何もないところで遊べるという。多分梅林なので、梅が落ちたら、梅をとって梅シロップとか梅干しとかもつくったりできるし、あとあそこは木がはえているので、やっぱりそこを残していただけると、木を縫って走る力とか、そういう運動の力もつくし、できたら本当はそこはそのまま残していただきたいんですけども、それが無理であれば、ちょっとこうしてほしいなという、要望書を市長のほうにまた持っていきたいとは思っているんですけども、ぜひあそこの土地を買い取って、子どもの生きる力を……。

何もないという自然がすごい大事で、学校で教えられて教えられて教えられて、自分の考える力が全くない。小金井の子どもはちょっと弱いといふか、そういう力はすごい少なく、やっぱり武蔵野の子とかちょっと見ていると、違うなと感じるんですね。それは何かわからないんですけども、小学校に入った途端に、今4年生の子どもが何か変わったなと思って。何かいい子になるんですけども、考え出す力とかがちょっと少ないかなとも思ったりして。だからそういうところで、やっぱり自然のああいふ何もないという。滑り台とかもなく、ただの広場があればいいんですけど。そこを買い取って、そういう

子どもの遊び場にしてほしいなと思って。

あと、もう一つ、今パソコンの予算、ICT化の予算で、ちょっと、これ、読みたいんですけど、できたら無線じゃなくて有線にしてほしいという願いなんですけれども、ちょっと読ませてください。これは、電磁放射線を浴びない権利の認知をとという記事です。

2015年6月、英国で15歳の少女ジェニー・フライさんが、校内に設置された無線LANから放射される電磁放射線に苦しみ、首を吊って自殺するという痛ましい事件がありました。彼女は電磁放射線に対して感受性が高かったため、自宅の無線LANは取り外し、自宅で元気ではいられました。しかし、学校に行くと体調を崩し、電磁放射線被曝によるひどい頭痛、疲労、膀胱の問題などに苦しんでいました。両親は学校側に無線LANの撤廃を申し入れましたが、電磁波放射線に対する無理解から、それが撤去されることはありませんでした。ジェニーさんは、世界で初めて報道された学校の無線LANによる犠牲者だと思いますと。

放射線の影響は、幼ければ幼いほど受けて、無線LANに使われているのは電子レンジに使われているものと全く同じで、電子レンジの食べ物に含まれている水分を1秒間に24億5,000万回振動させることで物を温めています。それが学校の教室にあふれるとなると、これ、1日の3分の1の時間をずっとそういうものを浴びているということになるので、私たちが大切に育ててきた子どもの体と脳に影響が起きます。電磁波汚染障害に比例して発達障害も増加しています。

電磁波放射線を子どものやわらかい脳に深く振動し、学習や情緒にかかわる海馬や扁桃体などに異常を起こしますということなんですけれども、オーストラリアのザルツブルク州では、2005年から、州内全ての学校、保育園、幼稚園で無線LANとコードレス電話の使用を禁止しています。2012年、フランスは、フランスの法律で3歳以下の子どもが過ごす空間でのWi-Fiを禁止としています。

これ、日本でもたばこが今もう一部となっているように、多分無線LANの被害も出てくると思うので、例えば有線にしてみたらどうか、どの教室でもWi-Fiが使えるというのをちょっと……。無線というのをちょっと考えていただきたいなと思って、それだけです。

○西岡市長

ご意見、ご質問をいただきました。ありがとうございます。小学校1年生のお子様が

いらっしゃるんですね。夜にお母さんが出かければ、ちょっと寂しい、つらいなという、そういう思いがあったというふうに伺いました。気になさっていると思いますので、今この私との質疑応答が終了いたしましたら、心配でしたら、どうぞ。私も心配していますので。

まず、浴恩館公園の土地の件でございます。こちらは、既に署名をいただいております。多くの皆様方から署名をいただいて、先日その代表者の方々も市長室のほうにお越しいただきまして、私もその方々と面会をさせていただきました。そして、いろいろな思いを聞かせていただきました。

浴恩館の存在価値や重要性については言うまでもなく、浴恩館、そして下村湖人の歴史、また浴恩館の建物の価値。また、そこにあるすばらしい緑地。そして緑小、浴恩館、緑センターにつながっていく、あの一体的な土地の価値というのは十分理解していますし、私も本当に年間を通じて何度も何度も伺わせていただいております。また、あそこのバーベキュー場も小金井市の地域の中にあるバーベキュー場という、浴恩館と栗山公園ということになりますので貴重な場所ですし、子どもたちには野外体験、食育、環境教育など、多面にわたって有効な施設だと思っています。

一方の今ご指摘の土地の関係につきましては、今、私もいろいろと検討しているところであり、また情報収集に今、励ませていただいているところでございますので、今日の段階では、まずはご要望として承らせていただきます。

また、私宛てに要望書を提出したいということでございましたので、いろいろな提出の仕方がありますので、市役所にご連絡をいただければ、ご要望書はしっかりと受理させていただきます。

それから、子どもたちの遊び場についてのご発言もございました。おっしゃるとおりでございます。今、園庭のない保育園も駅周辺にはございます。子どもたちの遊び場、居場所、子どもたちが元気に育つ小金井市でありたいと思っています。もちろん野川公園や武蔵野公園、くじら山、野川、公園、そして北には小金井公園など、公園や遊べる場所がもちろんないわけではありませんけれども、しかし土地を全体を見ますと、なかなか難しい部分があります。

昨年、初めて、小金井市は、公園等整備基本方針という方針を立案いたしました。この中には、今後の小金井市の公園のあり方につきまして、多面的に検討を行った結果、私たちの考え方をまとめたものでございます。

まず私としましては、いわゆる子どもたちが伸び伸び遊べる場所。最近プレーパークというものがあまして、学芸大学の中やくじら山公園の中で、自然の中でのプレーパークをNPOの方々に運営していただいております。学校の校庭、今ある公園、それから小金井市の公園などを多面的に有効活用していきたいと思っておりますが、じゃ、今の状況で本当にそのままがいいのかと言われれば、おっしゃるとおり十分課題があると思います。

特に保育園がとても増えておりまして、園庭のない子どもたちがお散歩をして、伸び伸びと遊べる場所の選択肢がたくさんあったほうがいいと思います。昨今、車の事故など、本当に言葉を失う痛ましい交通事故が2件も大きく報道されましたが、報道されていないことも含めればまだあるのかもしれませんが。小金井市ではそういうことが起きてほしくはありません。子どもたちの安全・安心を守りながらも、子どもたちが伸び伸びと遊べる場所をしっかりと確保できるように努力してまいりたいと思っております。

また、庁舎建設予定地で子どもたちが遊べる場所がなくなってしまうのではないかとご意見をいただきましたが、市役所の建設に当たっては、庁舎と福祉会館をつくるだけでなく、庁舎建設予定地を最大限に有効活用したいと思っております。その中で、子ども広場、あるいは小金井広場、親水広場、ウェルカム広場ということで、4つの広場を技術者からはご提案いただいておりますので、その場所も引き続き、まだ最終決定はこれからでありますけれども、庁舎建設予定地の中にある広場も、その広場の中で有効に活用してもらいたいと思っております。

また、福祉会館の屋上の有効活用もいろいろ考えておりまして、技術者からは庭園、ルーフガーデンという提案をいただいておりますが、中央線からよく見えるだけではなく、子どもたちからは同じ目線で大好きな電車が走ってきますので、そういう子どもたちにとっても楽しい場所であってほしいなという思いがありますが、これからも考えてまいりたいと思います。

それからWi-Fiです。いわゆる無線LANの健康被害の因果関係ということになりますと、これは極めて専門的な領域になりますので、そういったご意見があったということは、小金井市の教育委員会にはちゃんとお伝えさせていただきたいと思っておりますが、これは小金井市独自だけで判断するのはなかなか難しい面もあるかなと思っております。日本のやはり文部科学省や厚生労働省やあるいは世界のWHOなど、Wi-Fi、無線LANと健康との因果関係。今も飛んでいるわけですね、この辺に電波は常にたくさんある。

○市民B

遠ければ遠いほど少なくなっていて、近ければ近いほど被害が多くなるのでということなんですけれど。ただ、無線でなく有線だとまだましなので、部屋を決めるとか、8時間、その中に……。切ってもらおうとか。でも、やっぱりどのクラスもというのは、結局そのクラスに行って、その部屋に行ってやるとか。

実際ここによい資料があるので。そういうことをちょっと。大熊先生にもまた行きたいと思いますので、それは。

○西岡市長

大熊教育長とも、毎日、顔を合わせていますし、Wi-Fiのことについても意見をいただいていますよという話は大熊教育長からも直接聞いています。

○市民B

ああ、そうでしたか。

○西岡市長

はい。まず、これからそういう専門的な知見というものをしっかり踏まえながら対応を判断することになるかと思っていますが、現状では、今ある子どもたちの教育環境の向上の中で適切に判断していきたいと思っております。よろしくをお願いします。

○市民C

こんばんは。今日はこのような機会をどうもありがとうございます。ICUで環境問題、特にプラスチックについて、今学んでいて、今日はそれ関連の質問をさせていただけたらと思います。

まず小金井市ごみ非常事態宣言を出されていて、その宣言に込められた具体的な意味を教えていただけたらと思います。すいません、途中から来たので、さっき話した話と重複されているかもしれないんですが。

○西岡市長

大丈夫です。

○市民C

あと小金井市が現在抱えているごみ問題についても知りたいです。また、さっきリサイクルセンターを新しく二枚橋に建設されるということだったんですけど、ほかにも小金井市がやっている対策とかがありましたら、教えていただきたいと思います。

○市民D

リサイクルセンターはなくなるんですよ。

○市民C

なるほど。すいません、ありがとうございます。

○市民D

二枚橋に建てるのは。

○市民C

加えて、やっぱり行政だけじゃなくて市民もごみ問題に積極的に参画していかないとダメなと思うので、市民ができるような具体的な行動とかも教えていただけたらと思います。以上です。よろしくお願いします。

○西岡市長

ご質問いただきまして、ありがとうございます。大学生の方にこういう場に来ていただいて、とてもうれしく思っております。ありがとうございます。今、何学部ですか。

○市民C

教養学部のほうで、まだ専門分野は決まってないので。

○西岡市長

1年生、何年生ですか。

○市民C

1年です。

○西岡市長

小金井市のごみ非常事態宣言の意味。まず平成19年まで、小金井市は二枚橋というところで調布市と府中市と小金井市と3市で共同して可燃処理施設、燃やすごみ処理施設を40年以上運営しておりました。しかしながら、老朽化が著しく、もう建て壊さなければいけない。使えなくなるということになりまして、閉鎖して解体をしたわけであります。

○市民C

すいません。録音とかってしていいですか。

○西岡市長

いいですよ、どうぞ、どうぞ。

○市民C

メモをとりきれなくて。

(録音機器準備中)

○西岡市長

お母さん、時間、大丈夫ですか。

○市民B

大丈夫です。はい、大丈夫です。

○西岡市長

お子さんは大丈夫ですか。心配していましたよね。

○市民B

子どもがここの話、浴恩館の話をするからと言ったら納得して……。

○西岡市長

1人で留守番しているんですか。

○市民B

違います。お兄ちゃんもいるし、夫ももう帰りますので。

○西岡市長

よろしいですか。それでは、お話ししますね。

小金井市の可燃ごみには歴史がございます。まず、大分前になりますが、おそらく、だからもう50年以上前。天野課長、あれ、二枚橋が稼働したのは昭和何年でした？

○司会者

33年ぐらいだと思います。

○西岡市長

そうですね。昭和33年、ちょうど60年前ですね。に、先ほど申し上げましたように府中市と小金井市と調布市の3市民のごみを燃やすための処理施設が誕生しましたが、大体ごみ処理施設というのは、その施設の規模や機能にもよりますけれども、30年ぐらいが一つの目安と言われておりますが、40年近く稼働してきました。非常に老朽化が著しく、もう使えなくなるというのはわかっていたわけでございます。

そのような中で、調布市さん、府中市さん、そして小金井市と、それぞれが二枚橋の使用を停止した後に、どのような方法でそれぞれがごみの処理に向かうのかということが、それぞれ長い間にわたって議論されてまいりました。

そして、小金井市は可燃ごみの処理施設につきまして、いろいろな方策を議論したんですね。非常に深い歴史があります。そして、最終的には日野市さんと国分寺市さんと小金井市との3市で新しい一部事務組合を設立しようということになりました。そして、その処理施設は日野市内に建設するというので協議が行われまして、平成27年7月に新しい一部事務組合が誕生いたしました。

調布市さんは、三鷹市さんと一緒になって、ふじみ衛生組合という新しい処理施設を建

設して、もう今稼働しています。三鷹市で。そして、府中市さんは、稲城に既に存在しているごみ処理施設の多摩川衛生組合というところに加入されました。したがって、先ほど申し上げました二枚橋を運営していた調布市、府中市、小金井市は、それぞれの道を歩むということになりました。

そして小金井市は日野、国分寺、小金井と3市で新しい施設をつくっていきまして、今、建設工事が進んでおります。そして、来年の4月から、浅川清流環境組合の新しい可燃ごみ処理施設が本格稼働いたします。そこで日野市、国分寺市、小金井市の3市民の方々の燃やすごみの処理施設です。そして、新しい施設は4月から急に稼働できるわけではなくて、ならし運転やさまざまなチェック、また確認作業。機械がちゃんと順調に動くのかどうなのか。慎重な検証が必要なので、来年1月から試験運転に入ります。そして、この試験運転を行うためには、処理の対象となる可燃ごみが必要となりますので、今年の12月中旬からごみの全量搬入がスタートします。日野、国分寺、小金井の3市民の方々のごみの全量搬入が浅川にて開始します。

したがって、平成19年から続いてきた小金井市のごみ問題の一つの大きな節目になるんですけれども、先ほど申し上げましたように、平成19年に二枚橋の炉をとめてから、小金井市は焼却する独自の方策や施設がなかったということになります。そういうものを確立できなかったということになります。したがって、ずっと広域支援。多摩地域の方々に、小金井市は焼却する場所がないので、施設を持ち得ないので、助けていただいたという歴史があります。本当に心から感謝いたします。いろいろな場所でご支援いただきました、他の地域で。なので、12年間に及ぶ広域支援が、いよいよ今年の12月中旬で終了することになります。

このごみ非常事態宣言というのは、平成19年に炉をとめてから、たくさんの自治体の方々、多摩地域の方々に助けていただく、ご支援いただくことになるので、ごみを減量しましょう、ご迷惑をかけないようにしましょうと。例えば焼却施設をお借りするということ、使わせていただくということだけではなくて、小金井市からたくさんのパッカー車、塵芥車、ごみを積んだ車が多摩地域中を走るわけですね、焼却施設を目指して。そうしますと、本来走らないはずの車がいろいろな自治体を走るということになりますので、かなりご迷惑をおかけすることになります。そういう意味で、ごみを減量して、なるべくご迷惑をかけないようにしましょうということで、これまでごみの減量に努めてまいりました。

小金井市は、このごみ非常事態宣言、広域支援を受ける、そしてごみを減らさなければ

いけないという特命を背負ったということになるかと思います。しかし、市民の方々が本当に頑張ってくださいまして、1人当たりのごみの排出量は、冒頭申し上げたんですが、環境省の発表している平成29年度のデータでは、人口10万人から50万人未満の中で、622.5グラムだったと思いますが、1人当たりのごみの排出量が全国で一番少ない自治体でありました。そしてリサイクル率も51.8%。50%を超えまして、全国1位のリサイクル率を挙げました。これは誇れるべきことだと思います。

これは、私は、このとても厳しいピンチ状態が、市民の方々の努力によって、結果として資源循環型社会に向かっていく一つの大きなきっかけとなって、今、小金井市は努力している最中でもございます。この努力をこれからも続けていきたいと思っています。

そして新施設が稼働しても、いわゆる溶融炉、23区でよくあるような超高温処理する施設の選択をしていません。通常の、もちろんこれからつくる施設ですから効率性や燃焼率やさまざまな点、あと電気も発電したりしますので、かなり効率的なものをつくっていくつもりではありますけれども、分別やこれまで続けてきたごみの減量は、これからも引き続き続けていくということになります。

それからリサイクル事業所につきましては、今はこれまであった事業所を、庁舎建設の用地の中に位置づけられているものなので、シルバー人材センターの運営していたものは一旦廃止いたします。本格的なリサイクル事業につきましては、二枚橋につくる新しい不燃系粗大ごみの処理施設で展開していくということをございまして、これからのリサイクル事業のあり方については、二枚橋でどんな事業を展開するか。令和3年度中の供用開始を目指しておりますけれども、現在庁内で検討中という状況であります。

ただ、最近は民間のインターネットによる物々交換でありますとか、民間の、企業名は申し上げられませんがリサイクルセンターですとか、かなり選択肢が増えてはいると思います。

それから、ごみ問題、市民参加。実は、7月に2回ごみのことをテーマとしたワークショップを開催します。今、日にちはわからないんですが。

○市民E

25と28です。

○西岡市長

ありがとうございます。

ごみのことをテーマとしたワークショップを開催して、小金井市のごみ処理基本計画を策定するための基礎的な意見交換会をしたいと思っています。お時間があつたら、ぜひそちらに参加をしてください。子ども向けのワークショップと大人向けのワークショップ、2回開催します。それを2日間開催しますので、ぜひそちらに参加していただければと思います。

○市民C

わかりました。

○西岡市長

ありがとうございます。

○市民C

ありがとうございました。

○司会者

では、次、どなたか。

○市民F

緑町の〇〇です。お世話になります。ありがとうございます。

私もBさんがおっしゃった浴恩館公園のところの梅林が売却されようとしているところをぜひ市で取得していただいて、一帯が本当に生きていくような土地として利用していただきたいという思いで、6月に入って署名活動をしまして、要望書を提出しました。

ちょうど1カ月ぐらい前に、市長さん、本当に議会中でお忙しい中に時間をとっていただいて話を聞いていただき、ありがとうございました。本当に私も驚くぐらい多くの方が署名していただいて、今1,500に迫ろうとしていて、まだ集まっていますし、皆さんは、その後どうなったのと聞かれます。相続の問題が絡んでいますので、すごく時間的にある意味急がなきゃいけないかなと思って、今の市長さんのお言葉で検討されているというのを聞きましたが、本当に取得の方向に全力を挙げていただきたいと、私は思います。ここ

に何人かメンバーというか、一緒にその思いの方たちが見えていますけれども、もっともっと多くの方が地域でそれを見守っていますので、ぜひともよろしくお願いします。

要望書を提出されるということで、私もちょっとかかわらせていただいたり、幾つもの団体の方がかかわっておりますけれども、その中に具体的にやっぱり今の財源もなかなかない中で、具体的な提案としては児童館。今あふれそうな学童、緑学童保育。あの建物が市街地にある。あの建物を移設したらどうかという具体的な提案をしておりますので、ぜひその実現に向けて、検討していただければと思います。

これは不可能なことではないと、皆さんおっしゃるんですね。それは市の方の努力と、いろいろなご苦労があると思いますけれども、夢ではないと私は思っていますので、ぜひその方向で、あの土地が生きるように、あの土地を手放して住宅が建ってしまえば、もう天と地の差だと思うんですね。あの土地が私たち市民に残っていけば、本当にあの地域が、浴恩館が輝くようになっていくと思いますので、ぜひともよろしくお願いいたします。

○西岡市長

先日、市長室までお越しいただきまして、ありがとうございました。さまざまな思いを聞かせていただきました。署名も見せていただきました。

現在、先ほども申し上げましたけれども、庁内で情報収集と検討をしているという状況でございますので、今日のご意見として承らせていただきたいと思います。

○市民F

ありがとうございます。よろしくお願いします。

○市民G

すいません。いいですか。

○西岡市長

はい。

○市民G

ちょっと関連するんですが、私も浴恩館公園のすぐ近くに住んでおりまして、ちょっと

お手伝いなんですけれども、あそこでお餅つきとかそうめん流しとかかまどを使って豚汁をつくったりと、お手伝いをさせていただいているんですけれども、今すぐく世の中が悪くなっていて、いじめやら殺人やらということ。でも、私たちが育つころって、こんなにたくさんはなかったんですね。何が大事なのかといたら、自然の中で遊びながら、子どもたちがいろいろけんかしたり体験したりして、育っていく中で命の大切さというのを学ぶようになると思うんですね。

ただ、自然がなくなっちゃうと、あとこれをまた復活するというのはすごい時間がかかることですし、幸いなことに、すごい私は感銘を受けたんですが、小金井市のブランドメッセージの中で、「遊べる、学べる小金井市」ということで掲げていらっしゃるんですけれども、やっぱり若いお子さんを持った若いご家族が住みやすい町ということで、小金井市に越してきてもらえるようなまちづくりというのは、多分大事なことだと思うんですね。市の今後を考えることでも。こういうことをうたっただけというのはとてもうれしいことで、ぜひそれを含めて、緑って一回なくしちゃうと、もうあと宅地化されたりするとなかなか復元しにくいものですし、貴重な市の財産だと思うんですね、浴恩館も。

ぜひこれを前向きに検討していただいて、よりよい……。水もとてもきれいですよね、小金井市というのは。緑の小金井公園を含めて公園があちこちにあって、それを最大限に生かした市の行政というのを、ぜひ市長にお願いしたいなと思って、今日伺った次第です。

重複するようなことで申し訳ございませんけれども、ぜひよろしく願いいたしたいです。

○西岡市長

大変貴重なご意見をいただきまして、ありがとうございます。

その思いは私も全く同感であり、そういう思いを持って小金井のまちづくりや人づくりや未来づくりに努力しなければいけないです。

ただ、一方で農地の減少や、それから国の税制制度としまして、やむを得ず貴重な屋敷林や農地の減少なども今ある状況がありますので、そういう状況の中で、小金井市が今度つくる緑の基本計画というのはとても大切な位置づけになると思っておりますが、緑被率という目標にしているものがあるんですけれども、正直申し上げまして、そこにはまだまだ乖離があります。まだまだ至っていません。

今、浴恩館のことでお話をさせていただいておりますけれども、小金井市の水と緑を大

切にするという、この姿勢は未来永劫ずっと将来にわたって残していかなければいけないものだと思っておりますので、頑張ってまいりたいと思います。よろしく申し上げます。

○市民H

初めて参加させていただきました桜町の〇〇と申します。

初めてなんですけれど、この機会に思っていること、小金井市に対して思っていることを2つ、1つは質問なんですけれど。

宮地楽器ホールという名前になっていますけれども、小金井駅前。あそこの運営について。というのは、市の関係……。使い方といいますか、もう全く民間のものなのでしょうか。

○西岡市長

宮地楽器ホールについてでございます。

○市民H

ちょっとそこで1つ。いつも行って、危険を感じることもありまして。椅子の端っこに通路がないんですね。今地震が起きたら、本当に脇から逃げられないという状況がいつもありまして、それを両側をってことでもないし、(席が)減ってもいいので、安全を確保するというようなことを、子どもたちも行きますし、とても危ないところだなというふうに、失敗だったんじゃないかと思うぐらい。

でも、簡単に座席をとればいってことでもないし、どこに持っていけばいいのかなというのがありましたので。市の事業としてやったのか、それが宮地楽器ホールになって、その辺のことがどうなのか。

○西岡市長

宮地楽器ホールについてのご質問、ご意見がございました。

宮地楽器ホールは、武蔵小金井駅南口第一種市街地再開発事業の第1地区の中で、旧公会堂。昔、小金井市が持っていた公会堂という大きな市民ホールが再開発の中で権利変換されて、位置も変わりました、駅前に新たなホールとして誕生しました。今、開設から8年目を迎えているところだと思います。そして、ネーミングライツによって、株式会社宮

地楽器商会の方々が宮地楽器というお名前をつけていただくことによって、その広告収入をいただきながら運営しているという状況です。

そして、宮地楽器ホールは指定管理者制度。非常に難しい制度の名前で申し訳ございません。これを易しく言う方法がなかなかないんですけども、市の施設です。宮地楽器ホールは市が所有している、小金井市の公共施設です。その公共施設の運営、施設の維持管理のところを5年間契約にわたって、事業者に入札を行って事業者を選考して、そしてその選考によって選ばれた事業者の方々に運営をお任せしています。

設計は小金井市がやりました。公会堂が880席ぐらいあったんですけども、今は578席、大ホールですね。そして、今の宮地楽器ホールは、サントリー。サントリーホールを運営されているサントリーですね。それから野村不動産の共同事業体の方々が指定管理者に選ばれて、今、サントリーさんと野村不動産の共同事業体の方々が運営を担っていただいています。

小金井市からその運営に対していろいろご意見は言えるんですかということでもありますけれども、もちろん言えます。市の施設を指定管理していただいています。担っていただいていますけれども、所有者は小金井市であり、いわば市民の施設です。市民の施設ですから、当然受託者の方々もそのことを十分理解されて運営しています。

大ホールの両サイドに通路ということでございました。もちろんご意見として承りますが、現状としてはなかなかちょっと難しいかもしれません。あの椅子をとって、新たな通路をつくるようになりますと、それなりの準備や工事がかかりますけれども……。

○市民H

消防法とかには触れないのですか。

○西岡市長

はい、触れないです。もちろん消防法に触れるものを市はつくれないので、全部チェックしていただいております。ただ、確かに私もよく行きますので、ここに通路があったらなというのは感じます。正直申し上げまして。

しかし、限られた面積の中で、座席数を適法な中で、より多く確保したいという当時の思惑。私、まだそのときは市長ではありませんでした。東京都議会でしたんですけども、なるべく座席を確保したいという思いがあったのかなと想像します。

しかし、もともと880席ぐらいあった公会堂が578席になって、大ホールですね。今、成人式も2回にわたってやっているんですね。午前の部と午後の部。線路から北の方は午前、南の方は午後。2部制にはなっているんですけども、市民の方々からは、どうしてもっとこの座席を増やさなかったのという声は、たくさんいただきます。それから、駅前であると稼働率が非常に高く、なかなか予約がとれないということで、お叱りもいっぱいいただいています。

座席の通路を両サイドに新たに確保するというのは、ご意見としては承りましたし、担当にもお伝えしますが、現状では非常に困難なことかなと思っています。

○市民H

危険のないようにしてください。

○西岡市長

はい。ありがとうございます。

○市民I

危険が起こってからじゃしょうがないんだよな。

○市民H

はい、

○市民I

危険が起こってからじゃしょうがないんですよ。

○西岡市長

それはそうです。

○市民I

どうしようもない。

○市民H

駅前にホールを持っている市なんかほとんどないので、私も住んで、本当にこれは誇れるものだなと思うんですけど、実際に何か武蔵野市のほうにも会員になったりしているんですけど、あっちはすごく、それは運営の面ですけど、本当に1,000円とか1,500円とかで気軽にヨーロッパの本当の若者たちを呼んできて、本当に素晴らしい音楽が安価に聞けて、いつも満員で、すごく運営がうまくいっているんですけど、小金井は高い。で、そんなに行けません。何かもう少しこう……。

○市民I

武蔵野のほうはうまいの、本当に。有能なの、係員が。

○西岡市長

Iさん、発言されている方のときに……。

○市民I

座談会でしょ、これ。講演会じゃないでしょう。座談会でしょう。

○西岡市長

発言者がいらっしゃるので。

○市民I

だから、発言者に協力しているんじゃないですか。

○市民H

ぜひ市民にもっと還元していただいて、若者でも学生さんでも本物のいいものをたくさん聴けるような……。

○市民I

そうそう。

○市民H

そういう場所にしていただいたら、もっと誇りを、本当に持てるところになると思うんですけれど。

もう一つは北口の開発についてなんですけれども、すごくこれも期待してまして、これから、もう100年の計画があるというぐらいのことだと思うんですが、そこにどう駅前から北に向かってずっと広がっていく。景観コーディネーターみたいな方が、有能な方が1人もう燃えている人がいれば、全体のバランスとか緑をどういうふうに置くか。バランスよくというか、全体を見て計画していくという、そういう何か大きな計画を、市民のアイデアをたくさん取り入れていただいて、例えば南口だとお地蔵さんがいたり、そういう雰囲気なんですけれど、北はまた違ったものが。小金井に行けば素敵よという、緑いっぱいあるし、音楽聞けるし、あと学芸大の学生さんとか有能な芸術家もいっぱいいるわけですし、絵を描く人、音楽をやる人、そういうエネルギーをもっと発表したい人たちもいっぱいいますし、何かまちの中に子どもたちのつくったものを置くとか、何かそういうデザイン関係とか、そういう人って何かチャンスがあるんでしょうかという、何かお考えがありましたら。

○西岡市長

まず宮地楽器ホールは、少し料金が高いというご意見をいただきましたので、そこはしっかり受けとめさせていただきます。本当に駅の至近の距離にありまして、とても便利な場所ですし、稼働率も非常に高く、なかなか予約がとれないというのも申しあげましたけれど、よくお叱りは受けます。

しかし、あそこで、あの宮地楽器ホールは、文化、芸術、市民交流、さまざまな面で一つの交流拠点になっていますし、おっしゃるように市民の方々の潤いや安らぎにつながるようなさまざまな文化の発信をしていけるように頑張りたいと思っております。

先ほど指定管理者の件を申しあげましたけれども、事業者の方々も本当に小金井市民の方々のニーズに応えようと、必死になって一生懸命企画をしてくださっています。この受託者の方々、指定管理者の方々とも力を合わせて、いい事業が展開できるように頑張りたいと思います。

それから武蔵小金井駅の北口につきましては、これからまちづくりをスタートすべく、今さまざまな協議・検討が行われているところでございまして、小金井市も地元の方々の

まちづくりをご支援できるように努力してまいりたいと思います。

若い人たちがそういうまちのデザインにかかわることができるんでしょうかというような質問でしたが、先ほど申しあげましたように長期計画策定のためのワークショップや意見交換会を行っていますから、そういうところに若い方々にも積極的に参加していただきたいし、先ほど申しあげた1839会。あるいは高校生ワークショップですとか、若い世代の方々にも参加してもらえるような仕組みを今つくっています。

また、今後都市計画マスタープランという、いわゆる町のグランドデザインといいたいでしょうか。まちの都市計画ですね。まちづくりの将来像を示す新しい計画の策定に向けた準備も進めています。この令和元年というのは、本当にいろいろなものがいっぱい詰まった1年間でありまして、庁舎建設の基本設計もスタートしましたし、基本計画の策定、環境基本計画、緑の基本計画、地球温暖化防止推進計画などなど、もう本当にたくさんの重要な計画の準備をする1年間として、市役所の中は非常に職員が日夜いろいろな準備に今走り回っているようなところでございます。

私としては、若い方々のいろいろな発想や思いというものが、このまちづくりの中により生かされるように、そういう仕組みはこれからもたくさんつくっていきたいと思っています。

具体的に北口のまちづくりの中で、どのような形で若い方々のご意見が、あるいはデザインの専門的な勉強している方々の思いが反映されるかというのは、これは、民間の事業になるので、公共事業ではなくて民間主導の事業でございますので、小金井市のほうでもこの事業には積極的にかかわっていきたいと思っていますので、そういったことも念頭に入れながら、事業の推進を図っていきたいと思っています。以上です。

○市民H

ぜひ市民の、文教地区と言われるんですけど、こういうのを個人のあれで言っているのかわかりませんが、パチンコ屋さんとかそういうのが地下に入ったらいいなとか。それは母親の個人的なことなので怒られるかもしれませんが、そういう要望をぜひ聞いていただきたいと思います。

○西岡市長

はい、ありがとうございます。本当に小金井市のたくさんの魅力を大切にしてい

て、本当に感謝いたします。

私、市民一人一人が観光大使といいましょうか。市民一人一人がいろいろなメッセンジャーといいましょうか。思い思いに小金井市のいろいろな、感じている魅力を市内外の方々に伝えていきまして、12万人の方々がいろいろな思いを伝えていってほしいなと思います。大学や高校が多いのもまちの魅力です。

それから、北口の再開発につきましては、もともとかなり広域なエリアで、組合施行での再開発の検討が行われていましたけれども、非常に範囲が、想定が広範囲ということがございまして、さまざまな課題がございました。その中で一旦準備組合というものが設立されましたけれども、そこはいろいろ課題がありまして解散いたしました。そして、今は新たなスキームでまちづくりの準備や議論が行われているところでございますので、段階的に行われていくというイメージを持っていただければと思います。一気に広域なエリアが行われるというわけではございません。段階的にまちづくりが行われていきますし、そのまちづくりの手法もさまざまな手法がありますが、どういう手法が一番いいのか、地元の地権者の方々を中心に、いろいろな議論が行われているということでございます。

○市民H

ありがとうございます。

○司会者

じゃ、次の方、どうぞ。

○市民J

すいません。2つほどなんですけど、さっき宮地楽器の件があったんですけども、2017年に避難訓練コンサートというものが実施されているんですね。これをまたやっていただけないかな、やっていただける機会はあるのかなというのが1つです。

もう一つが、もくせい教室の件なんですけど、今、武蔵小金井のシャトーの中にあるんですけど、できれば東小金井駅近くにも1つつくっていただきたいな。子どものために東小金井から武蔵小金井まで通うのは、やはり周りの目があって通えない子どももいるので、ぜひご検討いただければと思います。以上です。

○西岡市長

ありがとうございます。

避難訓練コンサート、とても好評でした。ご参加されたんでしょうか。

○市民 J

一応情報で。

○西岡市長

そうですか。

○市民 J

はい。

○西岡市長

コンサート、本物のコンサートなんですね。素敵なコンサートなんですが、そのコンサートの最中に地震が発生したということで、出演者や会場にいらっしゃる方々が、実際に本番さながらな訓練を経験するというものでございました。そしてまたホールに戻って、またコンサートが続いたんだと思います。私はその日は、地方出張だったと思いますが、どうしても行きたかったんですが、それ、出られなかったんですね。とても残念に思っています。

私は、また再開を考えていただけていると思っていて、再開した際にはまたPRをさせていただきますので、ぜひお越しいただきたいと思いますし、避難訓練コンサートを再開してほしいという声があったということは、指定管理者のほうにはしっかり伝えさせていただきます。

それから、もくせい教室を東小金井駅にもということでありました。今のもくせい教室は、あるマンション、市役所の近くの中に入っておりますが、施設面でさまざまな課題がありまして、新天地をずっとこの間模索している状況もあります。

また、利用される方々にとって望ましい立地条件や施設的环境があると思うので、今、教育委員会においていろいろな検討や施設のあり方について、内部でいろいろな検討が行われております。また具体的には、場所や、今申し上げられるような状況ではなく、現在

進行形で動いています。分散化することがいいのか、地域の中心部にあったほうがいいのか。

また、体制の面もありますし。もくせい教室には、とても大切な先生やスタッフの方々がいらっしゃいます。その方々が分散してしまうとなるといろいろな課題が出てきますし、たくさんの授業を教えていますので、体制面からも現時点では小金井市の市域の状況で言いますと、市域の中心部で通いやすいところというのを教育委員会はおそらく考えているんだと思います。

しかし、武蔵小金井駅拠点、東小金井駅拠点、利用される方々からすれば、近いほうが望ましいというご意見はわかります。一方で、今申し上げた体制面の課題がありますので、こういったご意見はしっかり受けとめさせていただきたいと思いますが、もくせい教室はとても大切な場所なので、これからもしっかり継続して、利用者の方々にとって本当に大切な場所なので、これからの事業展開を教育委員会にはしっかり担っていただきたいと思っています。

○司会者

では、次、どなたかいらっしゃいますか。

時間がもう迫ってきておりますので、内容によって、あと1点か2点ぐらいになるかと思っておりますので、よろしくお願いいたします。

○市民K

まず1つ目は、小金井市が開催している審議会の情報などのことについてです。

なかなか審議会の情報が市のホームページにアップされなくて、市が一体今どんなことを考えるために、どんな審議会を開いているんだろうかというのがわかりにくいな、また、審議会が開かれた後の会議録だったり資料だったりの公開もまちまちだったので、そこがどうにかならないかなと思っていたんですけども、だんだん審議会の情報が増えてきていると感じていまして、そこについてはありがたいなと思っています。

それからツイッターなどでも、まだ各課にはなっていないですけど、課ごとのアカウントを取得して情報発信をするようになってきているというのは、市が少し情報発信の面で考えを深めてきているのかなと思っているので、そこについてはありがたいなと思っています。まだツイッターをやられていない方もいらっしゃるでしょうし、ホームページへ

アクセスするというこゝもなじみのない方もいらっしゃると思うので、限られた方への周知というふうになってしまうのかもしれないんですけども、引き続き情報の整理をして発信をしていただけたら、私たちが市のことを考えるときによすがになると思っていますので、それは引き続き検討していただいて、充実していただけたらうれしいなと思っています。

それから、先ほどごみのワークショップのことも、すいません、市長がインフォメーションしてくださらなかったら私言おうと思って、ちょっと吹かしていたんですけど、市長に言っていただいたので、あ、よかったなと思ったんですけども。

今、ごみのことについてのワークショップをそうですし、長計でもそうですし、庁舎や福祉会館のこと、いろいろなところで意思形成過程の段階でワークショップを開いて、市民意見をいろいろな方法で聴取しようというふうに市がかじを切っているのだろうなというふうに思っていて、それも私は好意的に受けとめています。

そういうことを比較的頻繁にやるようになったことについて、意思形成過程で市長の意見や考えがどういうふうに反映されているのかな、庁内でどんな検討がされて、今こういう状況になっているのかなというのがちょっと知りたいなと思っていまして、そこについてのお考えが少し伺えたらうれしいなというふうに、あと10分ですけども思っています。よろしくお願ひします。

○西岡市長

ありがとうございました。

審議会の情報、小金井市はたくさんの審議会が実はあります。そして、そこには学識有識者、公募市民、市の職員、各種その分野の団体の代表、関係者、たくさんの方々に構成されています。よくご指摘いただいたのは、女性の参加比率が少ない、もっと高めるべきだということや、市民の公募枠をもっと増やすべきだ。あるいは、審議会は原則全て公開します。どなたでも傍聴ができるんですけども、審議会における資料の配付をもっと充実するべきだ。あるいは今お話があったように、審議会が終わった後、議事録や資料をできるだけ早く公開する。公開しているんですけども、少し時間がかかってしまうことがあります。市議会でもよくご指摘いただく点です。

少しずつ改善はしてきたと思うんですね。その会議録などの発表のタイムラグがありまして、まちまちだというご指摘がありましたけれども、それは私も受けとめております。

なるべくスピーディーに、審議会が終わった後には議事録を作成し、公開し、配付した資料につきましても、公開がなるべくスピーディーにできるように努力はさせていただきます。

それからツイッターにつきましても、今各課でアカウントが持てるルールに変わりました。そして各課が発表するツイートは、小金井市のツイッターでもリツイートしますから、全部見たい方は、小金井市をフォローしていれば全部がわかるわけでありますが、それではちょっと情報が多過ぎるということや、この課の情報を知りたいなという方は、担当課のアカウントをフォローしていただければと思いますが、まだまだこれもスタートしたばかりということでもありますので、これから、私は小金井市長に就任したときに、市の職員の方々にはいろいろなことを申し上げたんですが、小金井市は情報発信力があまりにも脆弱だということをはっきり申し上げました。その一環として今のツイッターの発信がある。

また、市報こがねいも、お気づきになられたかどうかわかりませんが、字が実は大きくなっていますし、カラーの部分。少しずつ見やすくはして、いろいろな努力をしています。また、ホームページも今まで情報システム課が所管していましたが、今は広報秘書課で一元的に広報を担う担当課がホームページも管理をするように、組織面でも改善しております。

この情報発信能力の向上と多様なツールを活用するというのは、とても大切だと思っています。回覧板で回すこと、市報こがねい、ポスターを張ること、SNSを活用すること。情報発信にはいろいろな方策がありますけれども、この多様な方法・ツールを効果的に活用していくということが大切だと思っています。まだまだ市役所も勉強中なところがありますので、私も含めて。頑張ってもらいたいと思います。広報課長がおりますので、しっかり聞かせていただきましたので、一緒に頑張ってもらいたいと思っています。

それからワークショップを活用していくべきですということでした。先日、こちらもいづれ公開されると思いますが、市民参加推進会議の会長や役員の皆様方、委員の方々とご面会させていただいて、ご提言をいただきました。その主たる内容は、市民参加を推進する一つの手法として、ワークショップ方式というものを……。

○市民K

ワールドカフェ。

○西岡市長

ワールドカフェですね。ワークショップ（ワールドカフェ）。実際はワークショップって書いてあります。その文書の中には。

○市民K

そうでしたっけ。

○西岡市長

はい。ワークショップって書いてありますけれども。ワークショップ方式をもっと積極的に活用するという事で、さまざまなお提言をいただきました。それを踏まえて、私もそのご提言に対する意見を今発表する準備をさせていただいていますので、またそちらをごらんいただければと思っています。

ワークショップはかなり増えてきたと思います。参加する方々もとても楽しそうです。このワークショップを運営する最大の鍵は、ファシリテーション能力といいたいでしょうか。私たち職員が、どうやってその目的やポイントや議論を引き出すためのきっかけづくりや、ファシリテーション能力。コミュニケーション能力やコラボレーション能力やコーディネート能力の総合的なスキルを向上させていく必要があるんですが、ファシリテーターを務めるというのは、市の職員にとってもとてもいい経験になるので、今はどちらかというと委託している民間事業者の方々が主導的にそのワークショップの運営を担っているんですが、市の職員の方々ももっとそういうファシリテーターになれるスキルを高めていくべきだと思っています。以上でございます。

○市民L

大体、ファシリテーターって意味知っている人、正確に意味知っている人、いる？ 僕はもうルーテル大学でファシリテーターの修了講座を全部聞いて、やっとわかった。

○西岡市長

あとお一人ぐらい大丈夫でございます。はい。

○市民M

緑町に住んでいる者なんですけれども、先ほど広報のほうに力を入れてやるというふうにおっしゃっていたので、他の市とかは公園のホームページがあつて、公園課とかが多分されてあると思うんですね。そこにその公園をサポートする団体とかのホームページがあつて、そのホームページで例えば湖をきれいにするとか、そういった市がやっているところがあるんですね。

ぜひ小金井も公園課の方にそういった栗山公園だったり、浴恩館公園だったり、そういうホームページをつくっていただいて、やっぱりサポート、シビックプライドというふうにおっしゃって、あると思うんですけども、浴恩館のサポーターの方は、本当にシビックプライドが高いなとすごく思うんですね。緑町の愛着だったり思い出だったり。

その多世代にわたってこの公園に愛着を感じている方がすごく多くて、ぜひシビックプライドの醸成も含めてホームページに公開とか。あとやっぱり浴恩館公園、もうちょっと観光地化というか、はげの美術館があるように、歴史もあるし、小金井公園とあわせて寄っていく、ちょっとスポットと。観光地が少ないじゃないですか、小金井の中に。やっぱり産業がないですし、特に大きな工場とかがないから、財政も多分いろいろ厳しいかと思うんですね。

だけど、小金井公園という大きなスポットがあつて、連携して浴恩館も、武蔵小金井の軽井沢じゃないですけど、はげの森もそうですし、浴恩館を軽井沢のようにしていただけたら、やっぱり20代、30代の若い人が子育てしやすいとって世田谷のほうに集まっていくように、小金井もこうやって緑があつて、環境がよくて、文教地区で。残念なことに、浴恩館公園いいんですけど、ちょっと人通りが少なかったりとかするので暗いので、やっぱり安全性とかいうことが。子どもたちが、今はたくさんいろいろなお母さんたちが入っても、そういう観点で浴恩館公園の文化財センターが星野テラスじゃないけれど、星野エリアのああいうような、ちょっと緑と喫茶店があるような、農福連携したような、何かそういうようないろいろな総合的にあの辺が活用されたらなど。

あと、農福連携とかが今すごく言われているんですけども、障害者の方とか子どものものとかで、農福連携で助成金が出るので、その辺でちょっと緑地を残す。2022年問題がありますので、緑地を残すような方策を考えていただけないかなと、ちょっと思ったりはしています。

○西岡市長

それでは、最後のご質問とさせていただきます。非常に貴重なご意見をいただき、ありがとうございました。

小金井市の緑は財産。水と緑と桜と公園。私ども、水と緑と桜と公園、そして学校ですね。ほかにもたくさんありますが、守らなければいけない財産がたくさんあります。緑はもう象徴であります。浴恩館公園につきましても、本当に小金井市の誇る財産と心の底から思っています。

まちが暗いというお話だったんですが、実は2年前に8,400灯ある市の街灯を全部LEDに取りかえたんです。少しは明るくなりました。少し。

○市民M

明るくするというのは、何ていうんですか。たくさんの方が入って行って……。たくさん入るというのもあれなんですけれど……。

○市民N

電気じゃないのよね。

○市民M

電気じゃなくて……。雰囲気、雰囲気。

○西岡市長

照明が夜、暗くて怖いということじゃなくて。

○市民M

そういうことじゃなくて、例えば。

○西岡市長

明るくしてほしい。

○市民M

浴恩館のちょっとした木が望める、みんながちょっとお茶ができる場所があれば……。

○市民O

浴恩館だって、いろいろやったの。ユースホステルを経営したり、いろいろなことをやっていたの、あの浴恩館。

○市民M

歴史がありますよね。

○市民O

だけど、だめなの、あそこは。

○市民P

でも、希望はあるから。

○市民O

ユースホステルをやっていたころ、俺なんか泊まったんだから。

○西岡市長

それで、浴恩館公園をもっと市民の方々に知ってもらって、もっと活用してほしい、たくさんの人に来てほしいということですよ。秋の紅葉とか、すばらしいオオシマツツジとか。下村湖人の『次郎物語』を書いた歴史とか、もちろんおっしゃるとおりなので、まだまだ、活用していきたいと思います。

それから、美化サポーターの方々の取り組みがシビックプライドにつながっているというお話は、そのとおりだと思います。シビックプライドというのは、おそらく自然と形成されるものではないと思います。何か取り組んで、市民の方々も一緒に考え、行動し、町への愛着心や郷土愛やいろいろな思いがあって、行動することや、時に苦勞したり悩んだりすることもあるかもしれませんが、それを乗り越えていく。その努力をしていく、延長線上に初めて私はシビックプライドというのがあると思っていますので、そういう意味からも市民参加というものも進めていきたいと思っています。まだまだ努力中です。

農地を守るために農福連携ということをご指摘いただきました。令和4年に、生産緑地

が一斉に指定解除になってまいります。今まで500平米だった生産緑地の指定要件が300平米に緩和し、1団地の中であれば100平米の単位でも認めるということで、大分緩和したんですね。しかし、個人の財産でございます。また、都市農地、都市農業にとっては追い風となる国の法律がたくさんつくられてきてまして、私はとても前向きに受けとめています。

小金井市では今、農業、商業、福祉。私は農商福連携ということをおっしゃっていますが、こういう取り組みをどんどん増やしていきたいと思っております。また学校給食への地場産野菜の活用も、平成27年3%台だったものが、今13%台までに伸びてきました。今、全学校が地場産野菜を使ってくれています。

農地と農業双方をどれだけ残せるかということは、これはもうそのまの取り組み次第と思っておりますので、農業の方々とも連携しながら、今ある農地が継続して守れるように、今後も一生懸命努力してまいりたいと思っております。

○市民O

小金井市の欠点は、市民のエゴが強過ぎるのと、行政の力が弱い。へっぴり腰なの。

○西岡市長

次の発言はどうぞ、いいですよ、最後まで。マイクを使ってください。

○市民M

やっぱり大きなお金が動くことなので、すぐ買ってくださいというのも難しいかなって思うんですけど、例えば農福連携でちょっと土地をそういった施設として助成金を使ってということも考えていただきながら、ちょっと市が残していけるような方向ということは、そこをぜひ考えていただきたいなと思っております。よろしくお願いたします。

○西岡市長

貴重なご意見ありがとうございました。

○司会者

それでは、もうお時間が過ぎておりますので、発言できなかった方は、今度7月13日

土曜日、午後2時からまた婦人会館のほうで同じく座談会を開催いたしますので、そちらのほうにもご参加いただければと思います。

では、最後に市長より一言申し上げまして、終了とさせていただきます。

○西岡市長

時間も過ぎておりますので、手短に。

本当に今日はお足元の悪い中ご参加いただきまして、ありがとうございました。これからもこういった機会を大切にしながら、小金井市の抱えているさまざまな課題の解決に向けて、またまちづくりや人づくりや未来づくりに向けて一生懸命取り組んでまいりますので、どうかこれからもよろしく願いいたします。本日はまことにありがとうございました。

○司会者

それでは、以上をもちまして令和元年度第3回市民と市長の座談会を終了させていただきます。ありがとうございました。